

大学の窓から

…市民活動、ボランティアのステップアップを目指して…

連載 1

その情報は、どんな意味を持つのか――

テレビをつけていたら、天気予報のコーナーで、「今日の降水確率は、30%です」といった声が流れてきました。さて、あなたは、この情報を受けて、どうするでしょうか。

出掛ける前に、洗濯物を取り込む人も居るでしょう。鞆に折りたたみ傘を入れる人も居るでしょう。特に気にせず、今日は30%かぁとだけ思って、行動は何も変わらない人も居るでしょう。

私たちが、日々、大量の情報に囲まれて生活していることは、みなさんも実感されていることでしょう。情報という言葉も、あまり意識せずに、何気なく使われるようになってきています。改めて、情報とは何かを一言でいえば、「ある事柄についての知らせ」ということになりませんが、この知らせにもさまざまなものが含まれています。

最初の例で、洗濯物を取り込んだり、折りたたみ傘を持ったりといった人にとっては、降水確率30%という知らせ(情報)が、行動に変化をもたらすための判断に活用されるような意味を持った情報になったといえます。これに対して、行動に特に変化がなかったときには、単なる知らせとしての意味しか持たなかったこととなります。このように、同じ知らせ(情報)でも、それがどのような意味を持つものになるかは、人によっても、また、時と場合によっても違ってくることがあるのです。

さらにいえば、これらの違いは、情報そのものによって一様に決まってくるものではなく、他の情報との組み合わせなどによっても変わってくる場合があります。例えば、「降水確率30%」という情報も、前の時間が90%で、後の時間が0%であるという情報と組み合わせれば、天気が回復傾向にあると読み取ることができるでしょう。逆に、前の時間が0%で、後の時間が90%であるという情報と組み合わせれば、天気が下り坂にあるということになります。

私事ですが、先日、健康診断の結果が届きました。ここ数年、D判定(要精密検査)だった肝機能の数値が、今回はB判定(略正常)になっていました。以前は、その他の数値に多少問題はありつつも、まだ若いし、ちょっと食事や運動を気をつけてください、といわれて済んでいました。しかし、昨年くらいからは、まだ若いし、とはいわれずに、単純に治療や数値の改善が求められるようになってきたのです。同じ数値でも、時を経て、年齢という情報と組み合わせると、「気をつけて」から「要治療」になってしまうんですね。さて、私は、健康診断の結果という情報から何を読み取り、どのような対策(行動)を取っていくことになるのでしょうか。B判定に油断してはいけないことは分かっているのですが…。

みなさんが、市民活動やボランティア活動で、何に取り組んだらよいか、また、どう取り組んだらよいか、などに迷われることも多いかと思います。その答えは、一つではなくたくさんあるのですが、よりよい答えを導き出すためには、どのような情報を入手し、その情報をどんな意味を持つものとして理解するのが、一つの大きな分かれ道となります。宮崎市やあなたの地域の現状をみた場合にも、どのような情報を得て、そこからどのような意味を読み取ることができるかは、同じ現状からでも、みな様ではありません。新しい活動を始めたい時や、これまでの活動に行き詰まりを感じた時など、新しい情報を得ることと同じように、これまでにある情報をどのように組み合わせることができるかや、それらの情報から何を読み取ることができるか、といったことにも目を向けてみるとよいかもしれません。

今回は、情報を収集する力を高めるためには、どうすればよいのかについて、考えてみたいと思います。

【今回の参考・引用文献：拙稿「情報の収集力」(『生涯学習支援実践講座 生涯学習コーディネーター新支援技法研修(テキストI)』社会通信教育協会、2014年、49～57ページ)】



宮崎大学 教育・学生支援センター准教授
高橋 利行(たかはし としゆき)

専門は生涯学習学。人々の生涯学習を支援するための情報提供の方法を研究。出身は岩手県で、平成16年より宮崎大学に着任。主な著作に、『地域をコーディネートする社会教育-新社会教育計画-』(分担執筆)(理想社、2015年)や『生涯学習概論-生涯学習社会への道-(増補改訂版)』(分担執筆)(理想社、2014年)など。

著者プロフィール